

令和7年度

大阪市立鷺洲小学校

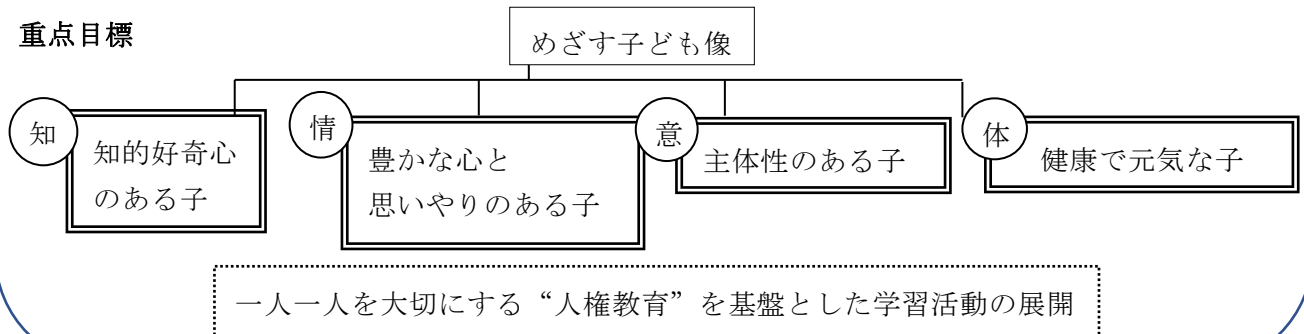
「運営に関する計画」

◆学校運営の指針「基本となる考え方」◆
＜心豊かに力強く生き抜き未来を切りひらく力の育成＞

学校教育目標

心豊かな子どもを育てる

重点目標



大阪市教育振興基本計画 全市共通目標と指標に関わる鷺洲小学校の状況

3つの柱 **安全・安心な教育の推進**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍化率を前年度より減少させる。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対市標準化得点を、同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

学びを支える教育環境の充実

- 児童の8割以上が学習者端末を活用した日数を、年間授業日数の50%以上にする。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

鷺洲小学校の考え方

- 1 いじめ・不登校・暴力行為の発生件数は、減少もしくは現状維持をめざす
- 2 学力については、通塾率の高さ・家庭の教育力の高さもあり高得点に引っ張られがちであるが、低位の子は丁寧な指導が求められる。⇒算数科の習熟度別授業を中心に今後も充実させる
- 3 体力については、運動習慣・基礎体力・運動能力の向上が求められる。しかし、学級数の増加により、学級単位で運動場や体育館を割り振ることは困難である。
場所の使い方を工夫し、学習内容や指導法、学習形態を工夫して、学年に応じた指導内容を実施し、一人一人の運動量を増やす工夫を行う。
- 4 教育環境や職員の勤務環境については、学習者用端末を効果的に使用した学習の充実や、作業内容の効率化による勤務時間の短縮など、様々な取り組みを進めていく必要がある。

外に向かって「心が拓かれた」学校づくり

集団育成・授業改革が鍵

1 素直に意見や思いが言える学級・受け止めてもらえる学級

2 **自尊感情**が育まれる学校

自分のよさ・友達のよさ・存在感 インクルーシフ教育

3 わかる授業・主体的対話的で深い学び(学びが実感できる授業) ← **子ども主体の学習**

- めあてがはっきりしている
- 学び方の見通しがもてる
- 自分の考えがもてる
- 友達と意見を交流し練り上げることができる
- 学習を振り返り、1時間のなかで何ができるようになったかが明確な授業

相手に伝わる気持ちのいい挨拶



地域の教材・人とつながる

地域の教育力を借りて健全育成

多様な人とのつながり

安全な学校に対する考え方

交通量の増加・児童数の増加

安全点検・学習環境の整備
きまりを守る

自分で考え行動できる力



※ けがの減少・災害時自助力向上

結果として 認知したいじめの100%解決

不登校・ゼロ

問題行動・ゼロ

大阪市立鷺洲小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○区内でも、特に地域の結びつきが強い本校は、児童を取り巻く家庭環境も比較的安定しており、生活態度や学習に向かう姿勢も落ち着いている。しかし、近年大型マンションの入居が始まり児童数が急増してきた。児童の置かれている家庭環境や教育観に多様化がみられる。また、ここ数年新型コロナウイルス感染症対策のため、地域とふれあう機会を縮小せざるを得ない状況にあった。新型コロナウイルス感染症が終息した現在、あらためて地域の文化や産業に目を向け、人とつながる教育活動を推進していくための更なる工夫が求められる。地域教材を活用した体験的な学習や挨拶活動を見直し、顔の見える関係づくりに向け一層改善を加えていきたい。

○児童数の増加に伴い、校内で発生するケガが増加してきた。校内の環境整備とともに、きまりを守り、危険を回避して行動する力を身につけることが求められる。そこで、昨年度までに引き続き、校内外の安全に係る指導計画の整備・実践を進めるとともに、児童一人一人が自分で考え、行動する力(自助力)をつけることをめざす。

○生活指導に関する問題行動の件数は少ないが、友達関係を起因とするトラブルの発生がみられる。児童一人一人が互いの良さを認め合い、共に学ぶ集団を育成し、誰もが安心して過ごせる学級集団、学校づくりをめざすとともに、トラブル発生時には、校内の生活指導部を軸に、「早期発見・情報共有・早期対応」を心がけ、全校体制で解決に向けて取り組む。お互いを理解することができるよう、学級活動における集団育成や、道徳家の学習に力を入れていきたい。また、家庭環境に起因する問題行動も発生している。学校と家庭がより密に連絡を取り合い、同じ目標に向かっていく必要がある。

○全国学力学習状況調査においては、毎年全国平均を上回る平均正答率を示しており、小学校学力経年調査の平均正答率も大阪市を上回っていた。しかし、近年は学年によっては大阪市平均を下回るところも出てきている。全体的に通塾率が高く、知識の理解度は一定レベルを保っているが、どの学年も二極化の傾向がみられる。主体的・自律的・挑戦的に学ばせる指導法・授業スタイルの確立に向けて、「考える力の育成」に尽力してきたが、本年度以降も継続して推進していく。

○体力の向上については、発達段階に応じて取り組みを進めてきたが、学級数の増加に伴い、体育の時間の運動場や体育館の割り当てが困難になりつつある。それぞれの学年で指導すべき内容を踏まえ、「運動量を確保し、基礎体力を高める」「休み時間の外遊びを推進、運動習慣をつける」ために一層工夫を加えていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

視点1 互いに認め合い、共に学ぶ集団の育成 ～いじめ・暴力行為・不登校の減少～

- 自分の考えが素直に出し合える学級集団作りを進める。
- 多様な人と交流する学習や、自尊感情を育む取組を進めることで、自他の存在や意思を大切にする児童、「自分にはいいところがある」「友達にはいいところがある」と回答する児童の割合を毎年維持する。

視点2 道徳心・社会性 ～地域連携～ ～思いやりの心・自尊感情の醸成～

- 地域教材・地域人材を活用した授業を推進することで、地域への愛着心を育む。
- 「誰に対しても気持ちの良い挨拶ができる」児童を増やすことで、児童と地域の人のつながりを強め、児童の社会性を育む。
- 地域に根差した教育活動の推進と、気持ちの良い挨拶の励行を通じて、地域住民の「小学校教育に対する理解と関心」を高め、児童にとって安心・安全な生活環境を形成する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

視点3 学力向上

- 個に応じた指導を推進し、経年調査における「標準化得点の向上」「A分布に属する児童の割合の増加」「C分布に属する児童の割合の減少」または現状維持を図る。
- 授業研究会の充実を図ることで、「めあてをもって学習できた」「友達と活発に意見交流・話し合い活動を行うことができた」「学びを実感できた」と回答する児童の割合を毎年増やす。(主体的・対話的で深い学びの実現)

視点4 健康や体力の保持増進

- 基礎的な体力・運動能力を毎年向上させるために、年度末の学校アンケートにおける「休み時間に、運動場で元気に遊んでいる」と肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。
- 運動習慣を身に付け、生涯スポーツにつなげるため、外遊びを推進し、体育科学習を除く1日の運動時間が30分未満の児童を減少させる。

視点5 学校力の向上

- 研究・研修に取り組み、教職員の資質・能力の向上をめざす。
- カリキュラムの再編成と改善を通して、効果的・効率的な教育活動を推進する。

【学びを支える教育環境の充実】

視点6 ICTの活用

- デジタル教材や学習者端末を利用した学習など、ICTを活用した学習を進める。

視点7 教職員の働き方改革

- ゆとりの日の設定など、教職員の働き方改革を進める。

視点8 生涯学習の支援

- 全ての子どもが生き生きと読書を楽しめるよう学校全体で取り組み、読書の習慣をつける。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがある」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- 校内調査において「自分の考えを素直に相手に伝えることができる」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- 校内調査における「すすんであいさつをしている」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63%以上にする。
- 「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりを推進し、「授業力が向上した」「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の50%以上にする。（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）
- 学習者用端末を使用した授業づくりの研修会を年1回以上実施し、学年間の情報共有の場を定期的に設ける。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- 会議の回数や会議にかかる時間の削減などで教職員が学級運営に向きあう時間を確保する。また、書類の電子化や掲示板の活用などにより、教職員それぞれが作業の軽減に努める。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立鷺洲小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 80.4%) ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 2.38%) ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R6 50%) ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。(R6 79.4%) ○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがある」と回答する児童の割合を82%以上にする。(R6 84.5%) ○校内調査において「自分の考えを素直に相手に伝えることができる」と回答する児童の割合を82%以上にする。(R6 80%) ○校内調査における「すすんであいさつしている」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 91%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】 すべての児童にとって学校が楽しいと思えるような、特別活動の充実を図る。 ----- 指標 「みんな遊び」などを取り入れるなどして、学級活動を充実させ、校内調査において、「学校に行くのが楽しい」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 89%)	
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】 学校・家庭・地域において、あいさつができる児童の育成を図る。 ----- 指標 児童会の「あいさつ週間」を設けたり、学級でできる「あいさつ運動」の取り組みなどをして、積極的にすすんであいさつができる児童を増やす。校内調査において「すすんであいさつしている」と最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を65%以上にする。(R6 61%)	
取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】 学級・学校をなんでも話しやすい雰囲気を醸成する。 ----- 指標 校内調査において「自分の考えを素直に相手に伝えることができる」と回答する児童の割合を82%以上にする。(R6 80%)	

<p>取組内容④【基本的な方向２、豊かな心の育成】</p> <p>道徳科を中心にして、児童が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」とする心情をはぐくむことができるように、指導実践の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います。」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を 84%以上にする。</p> <p>(R6 校内：思う82%、やや思う14% 経年： 79.4%、やや思う 15.1%)</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向２、豊かな心の育成】</p> <p>ピア・サポート活動等を行い、人の役に立つと思う児童を増やし、自己肯定感や自尊感情を高める。</p> <hr/> <p>指標 校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的な回答をする児童を 97%以上</p> <p>(R5 校内 95%→R6 96%)、</p> <p>「自分にはよいところがある」と回答する児童を 87%以上にする。</p> <p>(R5 81%→R6 86%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立鷺洲小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R6 経年37.1%)</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(R6 5年生のみ1ポイント向上。詳細は取組内容①参照)</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6 74.6%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63%以上にする。(R6 69%)</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりを推進し、「授業力が向上した」「指導の効果が上がった」と肯定的に答える教員の割合を90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">(R6 96%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>一人ひとりの子どもにとって「わかる授業」をめざし、習熟度別少人数授業に取り組むとともに、「教科等の見方・考え方」を育て、論理的に表現できる力を育てる。</p> <hr/> <p>指標・令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も現状維持または前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>(R5⇒R6 4年国102.2⇒101.7 4年算 101.6⇒100.8 5年国100.0⇒102.7 5年算 98.8⇒102.2 6年国102.1⇒102.4 6年算 103.0⇒102.0</p> <p>・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。</p> <p>(R4 経年40.8% 校内41%→R5 経年39.2% 校内40% →R6 経年37.1% 校内38%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりの推進や外国語活動や英語活動、英</p>	

<p>語教育の充実を図るために、校内研修会等で各種研究会や研修会の伝達を実施し共通理解を図り、指導法の改善に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査における「授業力が向上した」「指導の効果が上がった」の項目に対して、最も肯定的に答える教員の割合を45%以上にする。(R6 39%) ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R4 経年：68% 校内：69%→R5 経年：68% 校内70%→R6 経年：74.6% 校内78%) 	
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校的な取組(なわとび、かけ足など)を行い、一人ひとりが目標をもって運動に親しめるようにする。 ・体育学習の年間指導計画に沿って授業を実施する。その中で個人やグループの目当てを明らかにし、一人ひとりが目標をもって運動に取り組めるように指導法の工夫と充実を図る。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(R6 69%) 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立鷺洲小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。)</p> <p>○学習者用端末を使用した授業づくりの研修会を年1回以上実施し、学年間の情報共有の場を定期的に設ける。</p> <p>○ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <p>○会議の回数や会議にかかる時間の削減などで教職員が学級運営に向きあう時間を確保する。また、書類の電子化や掲示板の活用などにより、教職員それぞれが作業の軽減に努める。</p> <p>○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R6 74%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を生かし、デジタルドリルや学習支援ツールを活用することで、デジタルと紙それぞれの良さを組み合わせた効果的な学習を行っていく。 ・ICTを十分に活用していくために、効果的な運用についての研修を行い、教職員の技術を高めていく。 <p>(ICTを活用した教育の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・学習者用端末を使用した授業づくりの研修会を年1回以上実施する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員の働きやすい環境の整備や長時間勤務の解消を進める。 ・校務支援システムなどを活用した日常の様々な作業の効率化を進め、教職員の作業の軽減に努める。 ・会議の数の削減や、事前の伝達による会議や打ち合わせの効率化など、教職員の負担の軽減に努める。 <p>(働き方改革の推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 ・校内の教職員アンケートで、「作業や会議等の効率化を進め、勤務時間の削減に 	

<p>取り組むことができた。」という質問に、肯定的に答える教職員の割合を 93%以上にする。(R6 92%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもが生き生きと読書を楽しめるよう学校全体で取り組み、読書の習慣をつける。(学校図書館の活性化) <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 <p>(R6 経年74% 校内85%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	